

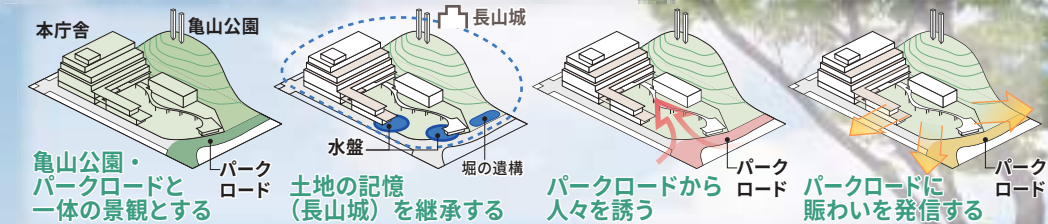
人々を誘い、映し出し、つながる「ふれあいの丘」

パークロードから人々を誘い、新たな人の流れを創り、賑わいを映し出し、
パークロードと亀山公園の自然をひとつにつなげる庁舎づくり

新庁舎整備においては、人々の気軽な立寄りや多様な活動のきっかけをつくり、
その賑わいを生き活きと映し出し、小さな賑わいをいくつも重ね合わせながら、
まちの活性化やまちづくりへとつながる拠点としての顔づくりを大切にしていきます。



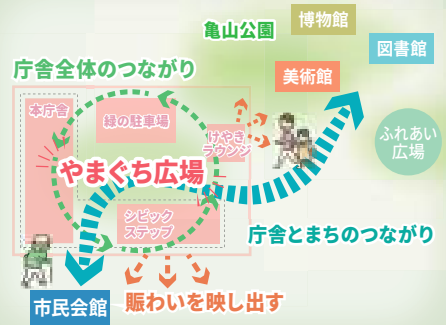
亀山の風景とひとつになる庁舎 — 4つの提案 —



県文化施設～庁舎～市民会館をつなぐ

やまぐち広場

庁舎敷地の中央に大きな「やまぐち広場」を配置し、庁舎施設全体をつなぐとともに、亀山公園の文化施設（県立美術館・県立山口博物館・県立図書館）やふれあい広場と庁舎と市民会館をつなぎ、まちに新たな回遊動線を生み出す計画とします。例えば、山口のちようちん祭りの新たなルートも想定できます。



① イベント広場

賑わう

② ピクニック広場

憩う

・各種イベントやマルシェ等多目的に利用できる舗装。
・シビックラウンジ（庁舎窓口待合スペース）やシビックステップ（市民活動スペース）と一体的に活用可能（演奏会や展示会）。

・けやきラウンジに隣接して設置。
・屋外における市民活動の拠点（まち歩きなどのイベントのスタート地点、災害時の炊出しスペース等）、けやきラウンジと連携した様々な活用ができる広場。

③ 芝生広場

集まる

④ パークロード広場

迎える

・敷地レベル差を活用した緩やかな傾斜の広場。パークロードから庁舎への自然な流れをつくる。
・芝はメンテナンスが容易な品種を採用。ロボット芝刈り機によるメンテナンスも検討。

・庁舎のエントランスとしての広場。
・両脇に堀跡を継承した水盤・滝・噴水を配置。
・現庁舎駐車場前面道路を廃止し、敷地に取り込むことを検討。

活動が見える市民活動の場「シビックステップ」

テラスと一体的に利用が可能な市民活動スペース

- ・段々の形状とすることで、この地域の景観と調和したデザインとします。
- ・段々のテラス部分は、屋内の市民活動スペースと連携して利用できます。
- ・やまぐち広場でイベント開催時には、テラス部分を観客席として利用することも可能です。

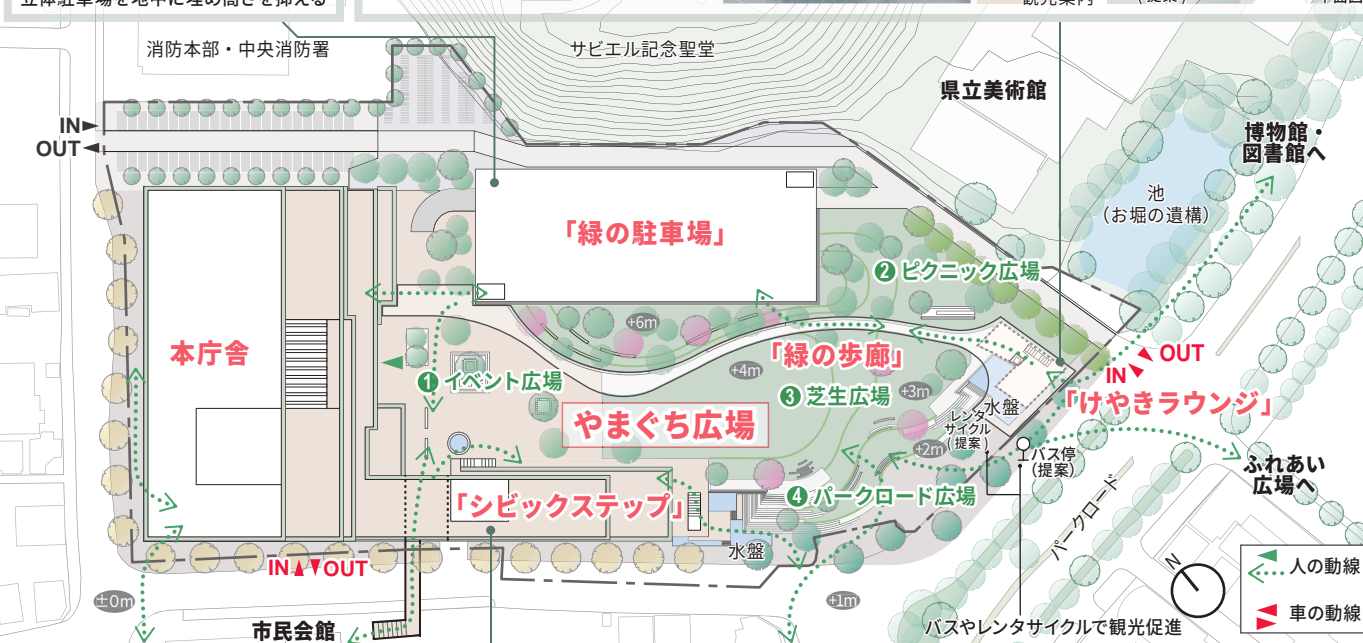
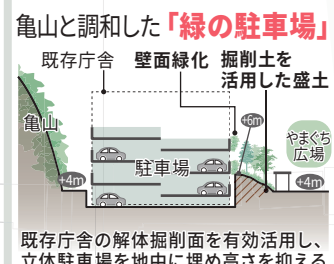
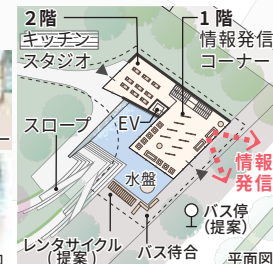
中高生の放課後の学習の場

- ・近隣の中高生の放課後の学習スペースとして気軽に利用することができます。
- ・中庭とテラスに面した落ち着いた部屋は、学習空間としても最適なスペースです。



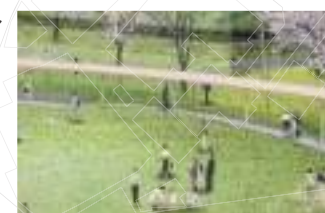
人々の立寄りのきっかけをつくる「けやきラウンジ」

- ・日常的に行われる市民活動をパークロード側に向けて発信し、まちに賑わいを生みだします。
- ・外来者に対しては、情報コーナーを設けることで、山口市の情報、観光、周辺の散策マップ等を発信し、まちの回遊性に寄与する施設とします。



施設をつなぐ環境装置としての「緑の歩廊」

- ・「けやきラウンジ」～「緑の駐車場」～「本庁舎」をつなぎ、広場を散策しながら、雨に濡れずに庁舎へアプローチできる緑の歩廊（渡り廊下）を設けます。
- ・緑の歩廊は単なる渡り廊下ではなく、様々な環境装置や防災設備を兼ね備えたものとしします。



景観と人の流れをつむぐ「緑の駐車場」

まちの回遊拠点となる駐車場

- ・敷地の中心に配置する駐車場は、文化施設めぐり、亀山公園、市民会館、中心商店街を利用する時の駐車場としても使えます。
- ・まちめぐりのためのレンタサイクルの拠点として整備し、パークアンドライドを促進させます。
- ・新本庁舎建設後のバス停やルートの変更も考慮します。

既存建物解体を活かした緑の駐車場

- ・壁面緑化、屋上緑化を行うことで、背後の亀山、山口広場との連続性を意識したデザインとします。
- ・ローコストの3層4段のステップ式認定駐車場を採用します。
- ・既存庁舎の解体時の掘削面を活用することで、亀山との一体感が生まれる建物高さとなります。

十分な滞留長を確保した2か所の出入口

- ・南側及び東側に敷地内への車の入り口を設け、駐車場までの十分な滞留長を設けることで混雑時の渋滞を緩和します。
- ・西側に消防署があることを考慮し、車の入り口は西側に設けない計画としますが、混雑時は臨時車両出口を設けることで最大3か所の出口を確保します。

ゲートレス、チケットレスシステムの採用を検討

- ・混雑時対策として、車番認識装置を用いたゲートレス、チケットレスシステムの採用を検討します。

